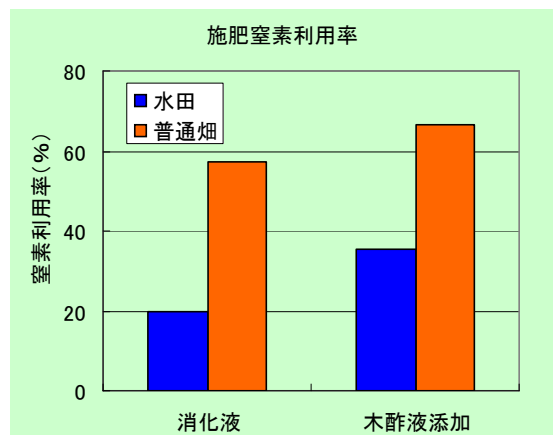
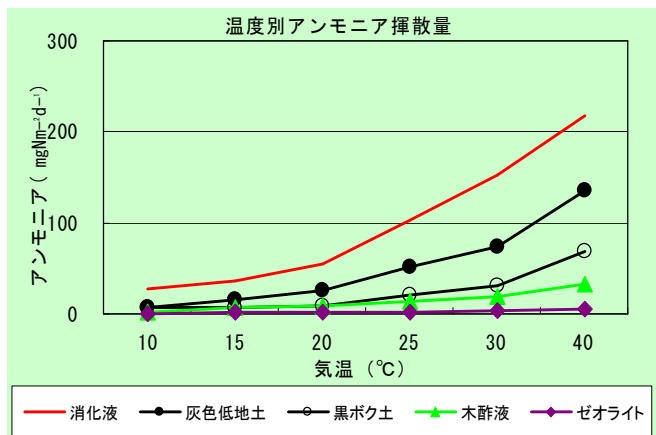


環境負荷を軽減できる生ごみ消化液の利用方法

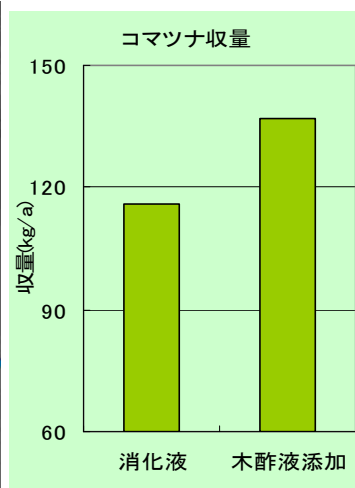
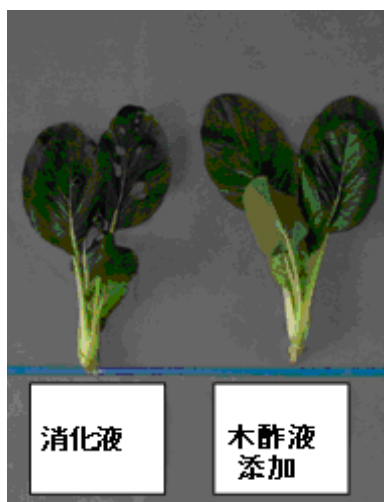
生ごみをバイオマスプラントでメタン発酵させると、メタンガスと消化液ができます。消化液は窒素やリン酸、カリウムなどの肥料成分を含み、即効性の液肥として利用できますが、作物に施用した場合、用水への溶出やアンモニアの揮散が確認され、環境への負荷が懸念されていました。

水田では、入水前に消化液を土壤に散布する方法、代かき後は消化液に木酢液を添加（消化液100Lに対し木酢液1~1.5L）して施用することで環境負荷を抑えられました。畑でも同様の効果が得られました。また、木酢液を添加することにより窒素の利用率が向上し、収量も増加しました。

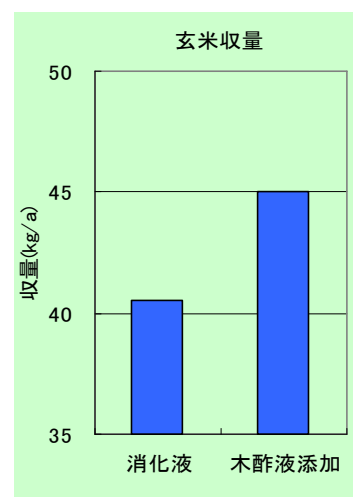


気温が高くなるとガスの揮散量が多くなりますが、木酢液添加で揮散量は約15%に、土壤への吸着で約30~60%に減りました。

窒素利用率は木酢液添加で水田で1.77倍に普通畑で1.17倍に増えました。



木酢液を添加することでコマツナの収量は20%アップしました。



水稻の収量は10%アップしました。